



"To acknowledge the duty that accompanies every right"
Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE Y'S MEN'S CLUB OF OSAKA-

c/o YMCA INTERNATIONAL PROGRAM CENTER
Dojima Grand Bldg., 1-5-17
Dojima Kita-ku Osaka 530 JAPAN
PHONE (06)344-1717

CENTENNIAL

THEME (1983~'84)

I.P. REACHING OUT

“手を差し伸べて”

R.D. CREATIVE POWER

“創造への熱情”

D.G. 兄弟の愛をもって

P. ONWARD CENTENNIAL

PART II

▽「YMCA-ASF」強調月間〈日本区〉

11月例会プログラム

とき 11月16日(水) 18:30~20:30

ところ YMCA国際・社会奉仕センター

司会 松添 壮君

1. 開会 山中 会長
 2. ワイズソング 一同
 3. 聖句朗読 安福又四郎君
 4. ゲスト紹介 山中 会長
 5. 食前感謝「日々の糧」— 晩さん 一同
 6. 役員会報告 山中 会長
 7. スピーチ「大奥御菓子秘話」
創業寛政2年 総本家駿河屋第66代 岡本 公一君
 8. 誕生日のお祝い
 9. EMC・タイム 杉本EMC委員長
 10. ニコニコ・アワー 黒田 嶽之君
 11. 委員長報告・YMCAニュース
 - 12.閉会 山中 会長
- ▲例会当番(杉本、黒田、田中、大野、松添、安福)

●11月は100%出席チャレンジの月。メネット同伴でおいで下さい。出席者全員に奨励賞を準備しています。

●ヌアスクラブへ交歓写真として送る、チャーター一周年記念写真の撮影も当夜行います。

●「大奥御菓子秘話」にちなんで、総本家駿河屋より全員に銘菓を差し上げます。又「大奥伝承御菓子づくり」の錦絵など珍らしい図鑑も特別に拝見できます。

▽誕生日おめでとう

山村 幸明 君	1934年11月 6日
山中ちあき メネット	11月 8日
桂 知良 君	1934年11月11日
横山 和子 メネット	11月13日
山中 秀男 君	1933年11月28日
中野 豊 君	1951年11月29日

Nov. 1983

II-5

Then Jesus told them, "You are going to have the light just a little while longer. Work while you have the light, before darkness overtakes you. The man who walks in the dark does not know where he is going. Put your trust in the light while you have it, so that you may become sons of light."

イエスは答えた。「光は、もうしばらくの間、あなたたちの間にいる。暗闇に追いつかれないように、光のあるうちに歩きなさい。暗闇の中を歩く者は、自分がどこへ行くのか知らない。光の子となるために、光のあるうちに、光を信じなさい」

(ヨハネによる福音 12章35~36節)

10月例会 出席者(在籍会員35名)

メン	第1例会 出席率	第2例会	Make up	集計
メネット	20名 57.14%	15名	5名	25名 71.43%
コメット	7名			
ヴィジター	1名			
新人	2名	1名		
合計	31名	16名		

○ヴィジター 森田恵三君(京滋部部長)

○新人 正田義明君(谷河君)

阪口芳良君(田中君)

照屋貞夫君(桂君)

○メネット 黒田、柴田、鈴木、長安、森田、山田、山中各メネット

○コメット 柴田佳苗さん

○ニコニコ 21,710円(累計60,210円)

▽結婚記念日おめでとう

黒田 嶽之・俊子夫妻	11月 8日
谷川 寛・有美子夫妻	11月 8日
安福又四郎・節子夫妻	11月15日
長安 敏夫・美和子夫妻	11月17日
鈴木 謙介・美藤夫妻	11月23日
中村 隆幸・幸枝夫妻	11月23日
藤本 史郎・まち子夫妻	11月25日

• THE Y'S MEN'S CLUB OF OSAKA - CENTENNIAL •

今月の聖句によせて

黒田 嶽之

もしある人が人生途上でつまずき、もう取り返しのつかない失敗をやってしまったと絶望感をもった時に、この聖句は無限の励ましになると思う。なぜなら「光は、もうしばらくの間、あなたたちの間にある」と教えている。従ってどんなに絶望した時でも、必ず神が一筋の解決の道を与えてくださり、その絶望を希望に変える力を持たせてくださるからである。

『親睦こそY'Sの原点』——10月例会から——
10月例会は、ゲストスピーカーに京滋部部長・森田恵三氏を迎えて、チャーター2年目に入ったセンティアル・ワイズダムに大きく活を入れて頂いた。

森田氏は京都クラブから京都パレスのチャーターメンバーとして活躍、さらに京都ウエスト設立の中心となりその初代会長をつとめられた。本年誕生した京滋部の初代部長である。京都ウエストは1980年チャーター、その翌年から連続して日本区最優秀クラブ賞、CS事業賞を受賞するなど目ざましい活動の実績をもつクラブ。そのクラブ運営の真髄をご教示願ったものだが、確信にみちた熱氣あふれるお話の数々に一同感嘆するばかりであった。

- (1) Y'S活動の原点は親睦にある。親睦から生れるクラブエネルギーが奉仕の心を生むのだ。
- (2) 出席率向上に格別のノウハウはない。たゞたゞ楽しいクラブ作りあるのみ。クラブが楽しくなければ自然に出席率が上がる。
- (3) クラブを楽しくするためにには“みんなでやる”クラブであること。全員参画のクラブ運営は例会だけではだめだ。各委員会の活動を中心にしてこと。又委員会相互の交流も活発にやる。各家庭でもたれる委員会交流を通じて、メネットもまき込んで家族的親睦を深める。この親睦から生れるエネルギーがクラブの原動力となる。
- (4) クラブ発展の基本はEMCのMをまず確立することがすべての中心になる。そのための工夫を、各クラブ特有の事情をふまえて徹底的に考えること。

概ね以上のような示唆に富んだお話を、京都ウエストの実際例を紹介しながら披れきされた。

出席率は100%が当然で月2回200%出席を前提にしていること。活動資金の確保も全員が汗しての販売活動が中心で、みかん・古新聞・チャリティーバザーなど。特に十勝じゃがいも販売では60万~70万の資金を生み、この資金が裏付けとなって次の事業が展開される。等々……

最後にわが杉本EMC委員長から「11月は100%出席にチャレンジしよう」との提唱がなされて閉会となった。

△会員消息 — 勤務先変更のお知らせ

堀 利満君・中野 豊君

(株) 太平洋・パシフィックツアーズ

〒530 大阪市北区堂島3-2-10 梅田橋ビル

TEL 06-453-5001

アジア映画祭を開催して

YMC A国際・社会奉仕センター 真嶋 克成

私達がアジアの現状を知るとき、これらの国が抱える貧困や様々な社会問題、そこに生きる人々の生活をぬきにしては語れませんし、伝統にはぐくまれたすぐれた文化に思いをはせます。その意味で、今回のアジア映画祭はアジアの人々とのコミュニケーションをはかり、正しい認識を深めるために役立ったものと思われます。

9月24日、松竹映画監督の山田洋次氏を迎えて「世界の映画の中のアジア映画」と題して講演を頂きました。その中で「この映画祭に上映される映画のモチーフがアジアの貧困と様々な社会問題に対する迫っていること、又、殆どの映画が300万円から1000万円以内で出来ていること、世界の映画市場でアジア製作作品数が極めて多いのにかわらずなかなか観る機会が少なく、あまり関心のない事が残念だと述べられました。今回もあり多くの人が観に来られず残念でしたが、長く、地道にこの種の催物を開催していくことが大切だと痛感しました。

〈鋭視野・ASIA〉

カンボジア難民村を訪ねて—その2—

国連が難民に食糧を配給しているのは周知のことだが、それは身長110センチ以上の女子に限られている。男子は準戦闘員とみなされて、対象外だ。110センチという身長も、以前は120センチだったのが、栄養上の悪いカンボジアでは厳しすぎるというので、10センチ下げられた。母親がもらえる1週間に2.7キロの米で、数人家族がやっと飢えをしのいでいるのが現状だ。子供への粉ミルクの支給にも、身長、体重、手首の細さなどに基準がある。手首の、ほんの数ミリの違いで基準から外れた子の前で、同じようにやせた子どもがミルクを飲む。少し成長すれば支給を絶たれる。

命からがら逃れてきて、国連の出先機関に登録され、米の配給を受けられるまで三週間。その間、先住の難民は自発的に米を出して、新らしい住民を支え合う。チャンカイチェックは昼食時だった。しょうゆで色のついたかゆに、一、二片の野菜が入っているだけ。それがすべてだ。

戦争さえなければカンボジア人は飢えたりしない。米が年に三回も収穫できる国なのだ。この戦争の原因は複雑で、私たち日本人には理解し難いが、戦争が普通の市民を苦しめるのは、カンボジアも例外ではない。

私たちは過去四年間、毎月150万円分の救援物資をタイで調達して三派連合政府配下の難民村に送り続けている。その大半は医薬品や医療器具、米、塩、野菜の種など。目的はあくまで、彼らの自立を手助けすることにあるが、チャンカイチェックの惨状を見て、通常の援助とは別の、緊急食糧援助を約束せざるを得なかった。それほど状態は悪化している。それもアジアの一角落でのことなのだ。緊急援助にご協力を!!

〔カンボジア難民救援会（KRRP）〕

606 京都市左京区聖護院東町10 国際学生の家内。TEL 075-791-4078 (朝日新聞掲載)

• THE Y'S MEN'S CLUB OF OSAKA—CENTENNIAL •

メネットコーナー

森田 一美

・すばらしくためになるお話を聞いて

去る10月12日、千里クラブの例会に出席させていただきました。そして、ゲストスピーカーのお話に大変感動致しましたので、今回、このコーナーで一部紹介したいと思います。

当日のゲストは、淀川キリスト教病院副院長で、同病院精神科部長、朝日新聞連載「生と死を支える」著者、そして、主に末期患者を身体的、精神的、社会的、宗教的に援助することを目的とするホスピスという施設の建設準備委員長であられる柏木哲夫先生でした。先生は、「人間の生と死」というテーマで、末期患者とその家族の実態、末期医療のあり方などを、先生の御体験をもとに、医療業務とは無縁の私たちにもわかりやすくお話し下さいました。そのお話の中で、私達が病人を見舞う場合にぜったいにしてはならないこととして強くおっしゃられたのは、安易に病人を励ますことでした。安易な励ましは、病人（特に末期患者）にとっては励ましどろか、淋しさ、やるせなさを与える最も残酷な行為となるのだそうです。皆さんも一度は病人を見舞われたことがあると思いますが、その時、病人の口から弱気な言葉が出れば、私達は反射的に「何を言ってるの、そんな弱気にならず、がんばりなさい」と励します。ところが、これが大きなまちがいだと柏木先生はおっしゃいます。というのは、病人は、見舞ってくれた人に弱音を吐きたいのに、そんなふうに励まされると、あとは何も言えなくなってしまい、やるせない思いだけが残るのだそうです。逆に、見舞う側にすれば、励まさなければ会話はだんだん死の不安、死の恐怖という問題に行きつくに違いないし、そうなった時、自分はどうに対処したらよいかわからない、そんな心の中の不安が励ますという形で会話を終わらせたいと瞬間に考え、つい安易に励ましてしまうのだそうです。結局、一番良い方法は、弱音を吐きたい病人には最後までそれを聞いてあげることだと教わりました。

もうひとつ強調されたのは、人は誰一人の例外もなく、生きてきたように死んでいくということでした。例えば、几张面な人は自分の死後、周りの人があわてたりもめたりしないようにちゃんと後かづけを済ませていたり、依存心の高い人は最後まで医師や看護婦にすがり、又、しっかりした信仰を持った人の死は比較的おだやかだったり、先生の御体験から「生きざま=死にざま」という式は完全に成り立つのだそうです。（ちなみに、割り切りがよく、気風のよい人はボックリ死ねるそうです）

柏木先生は、日本人は死を忌み嫌い、避けて通ろうとするが、誰にでも必ず訪れる死を考えることは、その人がその人らしく生きていくためにとても大切なことだとおっしゃいました。又、統計的にも、年をとり、身近に死を体験する回数が多くなるほど自分自身の死を実際問題としてとらえる傾向があるのだそうですが、いつ訪れるかわからぬ自分の死に対する心がまえは若いうちから必要であり、決して逃げてはならないとも強調されました。

私事になりますが、私はこの7年間に祖父母と父を亡く

しました。特に父の時には臨終にも立会い、人の命のあっけなさを感じました。昨夜旅行から元気に帰ってきた父が血を吐き、半日後には病院のベッドに寝ていて、今夜はその病院から冷たくなって帰ってくるのですから。それ以来私は、身内の死を時々考えるのですが、柏木先生のお話を聞いて、これからは自分の死についても考えていかなければならないと思いました。

最後に、死を最も受け入れにくいのは壮年時代だそうです。子供はまだ成人に達していないし、まだまだしたいこと、しなければならないことがたくさんあり、人間関係の広がりも深くなってくる。そして社会的にも責任が重い。我クラブのメンバーはほとんどがこの壮年時代に属しているしゃると思うのですが、縁起でもないとお叱りを受けるかもしれません、一度、自分の死が与える囲りへの影響を考え、よりよく生きていくために身辺整理をなさってみてはいかがでしょうか。

・メネット会のお知らせ

11月7日（月）鈴木様宅でメネット会を開きます。クリスマスを控えて手作りプレゼントを贈りましょうと、毛糸作品の製作が主な目的です。好評の長安メネット着付け教室も併せて開きます。こちらはお正月の装いに役立つことでしょう。会の模様は来月号にてご報告します。

〈予告〉

セントニアル・クリスマス・ファミリー祝会

◇とき 12月17日（土）17:30～20:00

◇ところ 大阪クリスチヤンセンター

◇会費 メン…4,000円 メネット…3,000円
コメット…1,000円

◇交換プレゼント（500円程度）を持参して下さい。

◇藤井保男君を委員長に、セントニアルの誇る「ファティ」グループが“メッチャ楽しい会”にしようと秘策を練っております。ファミリー全員集合しよう。

▼11月第2例会の日程変更

11月第4水曜日は祝日に当るので、翌24日（木）に第2例会を持つことにします。時間・場所はいつものとおり。

▼EMC委員長よりお願ひ

例会を楽しく演出し、出席を奨励するため抽せん会を企画しております。メンバーピークより景品のご提供をお願いします。11月例会にご持参下さるよう期待いたします。

△チャーターナイトのお知らせ

“双児クラブ誕生”でワイズ各方面の話題をさらった、「京都メイプル・京都キャピタル」クラブがいよいよチャーターナイト開催の運びとなりました。わがクラブからも多数参加し、一年前多数の先輩から受けた祝福を、新らしいクラブの皆さんにお返ししようではありませんか。

日 時 1983年11月27日（日）

13:00登録 14:00開会～17:00閉会

会 場 KBSホール（京都市上京区烏丸上長者町）

登録料 メン・8000円 メネット・7000円

• THE Y'S MEN'S CLUB OF OSAKA - CENTENNIAL •

IBC・NUUANU Y's だより

△ヌアヌ・クラブのブリテンよりハワイ太平洋集会の模様をお伝えします。

1983 PACIFIC CONVOCATION

The 1983 Y's Men Pacific Convocation was held on August 4-7, 1983 at Camp H R Erdman. Fifty nine delegates participated in our fourth Convocation.

The delegates were from Japan (4), Hong Kong (1), Taiwan (16), Australia (1), California (5), Hawaii teens (12), and Hawaii Y's Men (20).

After an initial orientation and a get acquainted program, the group, under the able leadership of LOU ANN GUANSON (Kaimuki Y's Men) and ANNA ROSE BRYANT (East Kauai Y's Men) began the main program with the theme of Human Explosion 1983. Highlights of the extracurricular program was:

a) morning exercises—

by JIM KANEHIRA of the Windward Club

b) International program—all groups

c) disco dancing—by Nuuanu Youths

d) campfire—by Windward and

East Kauai Y's Men

We hope the action plans of the individuals will sprout and grow. (Many thanks to our Nuuanu youth delegates: SHANE HEIRAKUJI, ANDREW AOKI, MATHEW CHUN, and CURTIS CHUN.)

△ヌアヌYMC Aのプログラムを伝える記事の一部もご紹介しましょう。

SMOKE GETS IN OUR EYES—BAR BQ CHICKEN

Sept. 25, 1983, was once again CHICKENDAY for the Club. Seven thousand chickens were cooked and sold this year. The activity, which was jointly held with the Windward Y's Men's Club, took place at the Nuuanu YMCA's parking lot. It all began at 5:30 a.m., which involved the setting up of the barbecue pits and burning the keawe chacoals in the pits. This was followed by "wracking" the chickens onto the wire screens, placing screens onto the pits. Then followed by the packers, who packed the cooked chickens individually into plastic bags, and finally, the cashier, who coordinated the cash sales and runners. In the process, we also sold 250 sushi's that sold for \$2.25 each.

§一枚の写真 §



山中 秀男
1977年、8
年間の滞米生
活を終え帰國
の途中、長年
の友人である
メアリー・ラ
ブさんを、テ
キサス州・ガ
ルベ斯顿市
に訪れた。

ラブさんは
名神高速道路
建設に際し日
本道路公団が
米国から招い
た、高速道路

建設技術のエキスパート、アルバート・ラブ氏の夫人だ。
ラブ夫妻とは、京都に住んでおられた時から家族ぐるみで
お付き合いしていたので、お別れの挨拶かたがた立ち寄った
ものだ。

帰国の時、長い滞米生活のお礼と記念を鯉のぼりに託そ
うと2組取り寄せ、1組は子供達が通学したニューヨーク
州ヨンカーマ第21小学校に、Japan Day を設けてもら
って寄贈し、もう1組はラブさんの住んでいるテキサス州
最古の歴史都市、ガルベ斯顿市歴史博物館に寄附した。

これは、その時ガルベ斯顿・デイリーニュース紙に載
った写真で、我が家族全員が館長のバット・フィネル女史
を囲んでのものだ。ガルベ斯顿市はヒューストン宇宙セ
ンター近くの港町で、昔は綿花と石油の取引で賑わったが、
今では専らテキサス大学医学部やけど治療研究所の所在地
として知られ、日本からの研究者も多数滞在している。

——*< YMCAニュース >*——

△ YMCA・YWCA 世界祈禱週

毎年11月に世界のYMCAとYWCAは合同祈禱週を守
っておりますが、今年は11月13日～19日の1週間“キリスト
と共に働く”をテーマに世界の人々のために祈ることに
なっています。とくに第1日（本年は11月13日）を平和の
日と定めています。どうぞこの事を覚えて、共に祈りま
しょう。

△世界祈禱週記念行事

当奉仕センターでは今年の祈禱週を記念して、アジアキ
リスト者美術展と特別講演会を開きます。美術展は11月15
日～22日の1週間開かれ希望者には販売もされます。

また講演会は11月17日（木）夕6時より同志社大学竹中
正夫先生を迎えて、アジア民衆のねがいについてお話を伺
います。どうぞご来場下さい。

△大阪YMCA新会館来春3月オープン

目下建築中の大阪YMCA会館は順調に工事が進められ、
いよいよ来春3月初旬に竣工開館のはこびとなりました。
既にパンフレットも出来上り、10月1日から募集・予約受
付がはじまりました。